『十字架を囲む』（マタイの福音書 27 章 32-44 節）2021.3.28.

＜はじめに＞ 十字架を掛けるのはアクセサリーとして飾るためですが、十字架に架けられるのは犯罪者だからです。教会は処刑道具をシンボルとし、処刑された方を信じ敬っています。素直には理解しがたいことでしょう。しかしそこに神の知恵、メッセージが隠されています。

Ⅰ　十字架を囲む人びと

①物語の整理

この箇所を紙芝居にするなら、何枚になり、それぞれどんな場面でしょう。
登場人物をみな挙げてください。彼らをグループ分けすると、どう分けられますか。
この物語で犯罪人はだれですか。また、犯罪人同様に見られた人はいましたか。

②クレネ人シモン(32)

十字架は極刑で、本来刑場まで死刑囚自身が負って行きます。
しかしここでは、クレネ人シモンがイエスの代わりに十字架を負わされました。
なぜそうなったのでしょうか。十字架を背負いながら、彼は何を思っていたでしょう。

③ローマの兵士たち(33-38)

ゴルゴタで兵士たちがしたことが 5 つほどあります。どういうことか挙げてください。
苦みを混ぜたぶどう酒は痛みを麻痺させるためです。どんな場面で差し出されましたか。
兵士は何の目的からぶどう酒を差し出したのでしょうか。

Ⅱ　イエスを取り巻く声

①浴びせられる雑言(41-43)

この物語で、言葉を発しているのは誰ですか。黙っている人はいるでしょうか。
イエスに向けてどんな言葉が浴びせられていますか。誰に聞かせようとしているでしょう。
祭司長、律法学者、長老たちはイエスにどんな思いを抱いて嘲ったのでしょうか。

②ののしる人々(39-40,44)

通りすがりの人たちや二人の強盗も、彼らもイエスをののしったのはなぜでしょうか。
彼らはイエスを昔から深く知っていたでしょうか。ののしる材料をいつ頃知ったのでしょう。
彼らはイエスが誰だと言っていますか。それを本心から納得して言っているでしょうか。

③人間とはどういうものか

彼らは処刑される犯罪者と対極に立っています。自ら「自分は悪くない」と思っています。
それはイエスへの反発・非難・攻撃に表れ、残忍・浅薄・妬み・雷同付和・自己中心などが透けて見えます。彼らはイエスを十字架で殺すことに賛同・加担しました。

Ⅲ　十字架の意味

①苦しみに留まるイエス

ぶどう酒をイエスはあえて拒みました。イエスには十字架から降りることは不可能でしょうか。
降りれば反対者はイエスを信じたでしょうか。正義・正論を振りかざし「自分は正しい、間違ってない」と主張する人たちから受ける苦しみ・痛みのすべてを味わうためです。

②イエスの罪状

イエスは自称「ユダヤ人の王」がローマ帝国への反逆、「神の子」と自称しているとみられたことが神への冒涜として十字架刑に渡されました。ののしりと嘲りにも一切弁明・反論されず、あえて罪人となり、十字架で死なれました。

③大逆転の御業

人々の非難はある前提に基づき、それが不成立なら判決は逆転します。神はその 3 日後にイエスを死から甦らせ、イエスが神の子・救い主であることを証しされました。それはイエスを信じる者の罪を赦し、新たないのちの歩みによみがえらせる保証でもあります。

＜おわりに＞ イエスを信じるなら、私も罪人だ、と認めているでしょうか。「私は悪くない」と主張するならイエスとは対極です。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためです」(マタイ 9:13)。イエスによって十字架は断罪から贖罪へと変わったのです。(H.M.)